

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年2月21日（日）

主 題：「同じ心構えでいなさい」

—イエス・キリスト—

テキスト：第一ペテロの手紙4章、1，2節

はじめに

- ・ドイツには「マイスター制度」（徒弟制度：職業能力認定制度）というものがあります。その歴史はそもそも、中世（紀元4、5世紀～15世紀まで）の手工業組合に始まります。現在のマイスター制度は1900年に始まりました。それはどういうものかと言えば、ドイツの職人はまず徒弟（見習い工）として、マイスター（師匠）のもとで働き、仕事を覚えつつ、2年から3年かけて専門学校に通いつつ職業資格を取得するものです。
- ・職業の種類としては現在5分野に分かれ、約170の職業があります。たとえば、パン屋、花屋、靴屋、テーラー店、クリーニング店、電気店、文具店、銀行員などです。ドイツではどの職業であっても、職業資格は求められます。
- ・そしてマイスターとなるには、職業資格を取得してから3年から5年の実績が必要で、マイスター試験は厳格で難しいとされています。ドイツではマイスター資格を持って、はじめて開業が許されます。
- ・この「マイスター制度」の目的は、優れた技術を後年に残すことにあると言われています。ですから、その道で勉強し職業資格を手に入れようとする人は、師匠の技術はもちろんのこと、「心がまえ」も学ぶ必要があります。そこにドイツの伝統的「マイスター制度」の魅力が秘められ、質の高いものが生産される理由があると思われまます。
- ・ドイツでマイスターとなるには、師匠と「同じ心構え」となる学びが求められます。ペテロは苦難下に置かれてユダヤ人クリスチャンに対し、次のように述べました。
2:21 このためにこそ、あなたがたは召されました。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。
4:1 キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。
- ・ペテロは苦難下にある聖徒たちに「キリストと同じ心構え」で自分自身を武装するよう勧めました。武装するとは戦いがあるということです。私たちは今のコロナ禍の時代、どのように武装する必要があるでしょうか。今日は次の2点から学びたいと思います。

大切なポイント**1. 肉において苦しみを受けたキリスト**

- 4:1 キリストは肉において苦しみを受けたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。

1) 人としてのキリスト

- ・イエス・キリストは神の御子です。神であるお方が人となられて生きられました。ですから、私達とは違います。どうぞ誤解しないでください。

「キリストは肉において苦しみを受けられたのです」

- ・ヘブル人への手紙 4 章には次のように書かれています。

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

- ・イエス・キリストは私たちと同じ生身の人間でした。罪を犯すことはありませんでしたが、他の点では「肉」の弱さを身にまとわれました。では、なぜキリストはそこまでされたのでしょうか。2つの理由があります。

① 私たちの身代わりとなり、贖罪の死を遂げるため

② 私たちを本来の姿に回復するため

- ・キリストが死んでくださったのは、罪があり神の栄光を現せなくなった私たち人間が神のもとに回復し、栄光を現す者となるためでした。イエス・キリストの受肉は、私たちがキリストによって回復し、神のご性質を反映する姿を示すためでした。

2) 回復のスタートライン

- ・ですから、ペテロは言いました。

4:1 キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。

- ・神は、「同じ心構えで武装しなさい。」と、私たちに期待しておられます。

皆さん。私たちが信仰をもってキリスト者となるということは、心の変化、神のかたちの回復のスタートラインに立つということです。その後の人生は、キリストのかたちに変えられていく人生です。

- ・それはキリストがもっておられた父なる神との親密な交わり、愛とあわれみ、知恵と勇気、平安などをもつ者へと一歩一歩変えられていくのが、私たちの人生です。パウロは 2 コリント 3 章で次のように言いました。

3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

なんという幸い、なんという祝福でしょうか。

3) 自分自身を武装しなさい

- ・ところで、ペテロは言いました。

4:1 キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。

- ・ここで、ペテロはキリストと同じ心構えで自分自身を武装しなさいと、勧めました。武装と聞くと戦争をイメージする方もおられまじょうが、そこには戦いがあります。

- ・私たち人間は簡単に妥協してしまいます。簡単にあきらめてしまいます。そして神がお与えくださる祝福を受けないまま、クリスチャンになってもならなくても、あまり変化がないような人生を送ってしまう危険性があります。ですから、戦いがあることを自覚し、「武装すること」は大

切なことです。

- ・私たちは苦しみの道を通ること、また困難を受けることは避けられないことがあります。ですから、その心の備えをすることは大切です。心の武装をすることによって、信仰生活は違ってきます。
- ・では、心の武装とはどんな武装でしょうか。それはキリストが身につけていたものです。神のみことばです。イエスは公生涯のはじめ、悪魔の誘惑を受けた時、神のみことばを持って撃退されました。神のみことば私たちに武装し守るものです。聖書のみことばを蓄えることです。
- ・ヘブル人への手紙 4 章をお開きください。

4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

2. 同じ心がまえでいなさい

1) 十字架の苦難に合わせられて

4:1b 肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。

- ・この聖句をドイツ語ルター訳聖書を開きますと、完了形で「罪との関係を断たれた。」と訳されています。すなわち、キリストを信じ、受け入れたとき、私たちは十字架のキリストと一つにされました。それによって、罪に支配され、罪に仕えてきた私たちが、「罪との関わりを断たれ」て、新しい復活のいのちに生きる者とされました。(ローマ 6 章参照)
 - ・この聖句のもう一つの訳は、日本語訳聖書(新改訳 2017 版)のように、現在形で書かれています。つまり、キリストの苦難にあずかることを受け入れたクリスチャンは、その苦しみの中で「罪との関わりを断ち」きよい生活をしようとしていることです。
 - ・じつはこの 2 つの翻訳のように、キリスト者は「罪との関わりが断たれ」(完了形)、そして現在も「罪との関わりを断って」(現在形)、生きるものです。
- 自分の自己中心的な生き方を離れて生きる、新しい生き方に転換したということです。

2) 神のみこころに生きるため

4:2 それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみこころに生きるようになるためです。

① 「人間の欲望」

- ・イエス・キリストを信じていなかったときは、私たちは「人間の欲望」にしたがって生きていました。自己中心的な欲望です。世界の中心は自分で、自分の成功、自分の楽しみ、自分の計画、自分のプライドが生活の中心にありました。
 - ・しかし、そこには真の満足、真の平安、真の喜びはありません。
- 自分の思いどおりにならなければ、苛立ち、怒り、恨み、無気力になってしまいます。

② 「神のみこころ」

- ・ですから、「人間の欲望」にしたがって生きていた者が、「神のみこころ」に生きるものとされたことは、神の恵みであり、祝福であります。
- ・キリストを信じ生きる幸いをまだ理解できてない人にとっては、「神のみこころに生きる」こと

は窮屈な生き方と思うかもしれませんが、しかし、そうではありません。

- ・「神のみこころ」を求めて生きるなら、むしろ自分への執着、自分のプライドや不安から解放され、心の自由を得ることができます。自分で荷物を背負い込み疲れ果ててしまうような生活からの解放です。本当に幸いな生き方です。
- ・「神のみこころ」を求めるとは、権力をもつ者の顔色をうかがい、^{そんたく}忖度しながら生きることではありません。神は、私たちが主体的に判断し、決断し、自分の選んだ道を責任をもって生きる、勇気を与えてくださいます。

③ 「みこころが行われますように」

- ・私たちは一日が始まる時、「主の祈り」の一節を祈ります。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

マタイ

- ・私たちは様々な戦いの場面で、「主、どうしたら良いでしょうか」と尋ねます。あるいは「主よ、この人を助けることができるように」と祈ります。一日の終わりに、自分の一日の歩みを支え、導いてくださったことを覚えます。また自分の祈りに答えてくださったことを感謝します。自分の思いどおりになっていなくても、神におゆだねしが共におられる時の、バロメーターです。

4:2 それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみこころに生きるようになるためです。

- ・愛する皆様。私たちに与えられている時間は限られています。自分にはどれだけ残されているか、私たちには分かりません。突然、終わりが来るかも知れません。ですから、「神のみこころに生きるように」つとめましょう。そして朝「みこころが行われますように」と祈り、一日を始めようではありませんか。

まとめ

主 題：「同じ心構えでいなさい」

— イエス・キリスト —

- ・ペテロは離散したユダヤ人クリスチャンへ、この書簡を送りました。その目的は彼らを励ますことにありました。苦難の中で勝利を得る秘訣は、主であるキリストと「同じ心構えで」歩むことです。
- ・では、主と「同じ心構え」とはどういうことでしょうか。

1. 自分自身を武装することで

4:1 キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。

2. 神のみこころに生きる

4:2 それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみこころに生きるようになるためです。

* God bless you !